

アルファ・ウイン 企業調査レポート

ピー・シー・エー

(9629 東証一部)

発行日：2021年2月5日

アルファ・ウイン 調査部

<http://www.awincap.com/>

● 決算速報

◆ 基幹業務用ソフトウェアに特化した專業大手、クラウドで先行し業界NO. 1

- ・ピー・シー・エー株式会社（以下、同社）は、独自に開発した業務用パッケージソフト（会計、販売管理・仕入在庫管理、給与・人事、就業管理など）を、主に中小企業向けにオンプレミスやクラウドにて提供し、保守サービスを行っている。企業の円滑な経営・運営をサポートする「マネジメントサポート・カンパニー」として社会に貢献することを使命としている。業務用ソフトのクラウド（PCA クラウド）では先行し、業界 NO1 の実績を誇る。今後、サブスクリプションビジネスに更にシフトする方針。
- ・近年、ストックビジネスモデルへの転換が奏功、加えて特需の恩恵も享受し業績は好調で、前期（2020/3期）は、5年連続の増収増益、過去最高利益を更新。今期は、特需の反動から一時的に減収減益の予想。

◆ 今期第3四半期累計決算～特需の反動により減収減益だが会社想定を上回った模様 <2021/3期第3四半期累計（2020/4～12月）の実績>

- ・同社の2021/3期第3四半期累計（以下、Q3累計＝4～12月）業績は、売上高9,414百万円（前年同期比＝YOY:△12.1%減、なお、本レポートでは原則、少数点第2位を四捨五入、以下同様）、営業利益1,524百万円（同△40.2%減）、経常利益1,554百万円（同△39.4%減）、当期純利益1,055百万円（同△35.9%減）と、前期に発生した特需による反動減が響き、減収減益決算となった（P2-図表1）。
- ・但し、前回特需の反動があった2015/3期は、前期比2割を超える大幅な減収、減益並びに赤字への転落となった。当時と比較すると、ストックビジネスへのシフトなどにより経営体質の改善が進み、また過去20年間の業績と比較しても、今期の売上高や利益は高水準を維持していると考えられる。
- ・Q3累計では、製品売上高が前年同期比で半減しているほか、商品、その他収入も2桁の減収となった。これに対しクラウドサービスは前年同期比で+22.7%増、保守サービスは同+2.2%増と、ストックビジネスには特需による反動減が見られず好調に推移している。
- ・利益面では、前期Q3の60.5%から今期Q3の59.6%に粗利率が0.9ポイント悪化、同様に販管費率は36.7から43.4%に6.7ポイント増加し、その結果、営業利益率は23.8%から16.2%に7.6ポイント低下している。但し、今期は賞与規定の改定を行ったため、115百万円の一過性の費用を計上している。これを考慮すると実質的な販売管理費は4,086-115=3,971百万円と、前年同期の3,931百万円に対し+40百万円増(+1.0%増)に留まり、販管費率は42.2%まで低下する。同様に営業利益は、実質的には1,524+115=1,639百万円となり、前年同期比で35.7%の減益、営業利益率は17.4%（修正前と比較し1.2ポイント上昇）となる。
- ・同社による今通期の業績予想に対し、Q3累計の進捗率は、売上高で70.9%、営業利益で74.9%、当期純利益で77.6%と順調に推移している。因みに、前年度実績に対する前期Q3累計の進捗率は、それぞれ順に75.0%、91.6%、90.6%であったが、特需効果が大きかったため単純には比較できない。

【図表1】四半期の業績と通期計画

第1四半期業績		2020/3第1四半期	2021/3第1四半期	増減率	増減幅	増収寄与率	売上高構成比				
単位:百万円		2019年4-6月	2020年4-6月	YOY:%	YOY:百万円	%	%				
連結売上		3,073	2,789	-9.2	-284	-100.0	100.0				
種類別売上区分	製品	852	307	-62.9	-545	-121.5	11.0				
	商品	102	77	-24.4	-25	-8.7	2.8				
	保守サービス	865	899	4.0	34	12.0	32.2				
	クラウドサービス	764	957	25.2	193	68.0	34.3				
	その他営業収入	888	546	-20.6	-342	-50.0	19.6				
粗利		1,888	1,758	-8.0	-112	-	-				
	粗利率(%)	60.8	63.0	2.2	-	-	-				
販売管理費		1,281	1,290	0.7	9	-	-				
	売上高販管比率(%)	41.7	46.3	4.6	-	-	-				
営業利益		587	465	-20.7	-122	-	-				
	営業利益率(%)	19.1	16.7	-2.4	-	-	-				
当期利益		384	272	-25.1	-92	-	-				
	当期利益率(%)	11.8	9.8	-2.1	-	-	-				
第2四半期業績		2020/3第2四半期	2021/3第2四半期	増減率	増減幅	増収寄与率	売上高構成比	2020/3上期会社	増減率	2021/3上期会社	増減率
単位:百万円		2019年7-9月	2020年7-9月	YOY:%	YOY:百万円	%	%	2019年4月-2019年9月	YOY:%	2020年4月-2020年9月	YOY:%
連結売上		4,096	3,191	-22.1	-905	-100.0	100.0	7,169	46.8	5,990	-16.6
種類別売上区分	製品	1,190	420	-64.7	-770	-85.1	13.2	1,842	126.7	727	-60.5
	商品	117	88	-18.4	-19	-2.1	3.1	219	5.8	176	-19.9
	保守サービス	839	878	5.4	45	5.0	27.5	1,698	9.4	1,777	4.6
	クラウドサービス	804	992	23.4	188	20.8	31.1	1,568	38.9	1,949	24.3
	その他営業収入	1,153	804	-30.3	-349	-38.8	25.2	1,841	51.0	1,350	-26.6
粗利		2,476	1,909	-22.9	-566	-	-	4,343	60.0	3,866	-11.6
	粗利率(%)	60.4	59.8	-0.6	-	-	-	60.6	-	61.3	-
販売管理費		1,291	1,437	11.3	146	-	-	2,572	4.1	2,727	6.1
	売上高販管比率(%)	31.5	45.0	13.5	-	-	-	35.9	-	45.6	-
営業利益		1,184	473	-60.1	-711	-	-	1,771	625.8	938	-47.0
	営業利益率(%)	28.9	14.8	-14.1	-	-	-	24.7	-	15.7	-
当期利益		813	317	-61.0	-496	-	-	1,177	600.8	589	-50.0
	当期利益率(%)	19.8	9.9	-9.9	-	-	-	16.4	-	9.8	-
第3四半期業績		2020/3第3四半期	2021/3第3四半期	増減率	増減幅	増収寄与率	売上高構成比	2020/3期第3四半期累計	増減率	2021/3期第3四半期累計	増減率
単位:百万円		2019年10-12月	2020年10-12月	YOY:%	YOY:百万円	%	%	2019年4月-2019年12月	YOY:%	2020年4月-2020年12月	YOY:%
連結売上		3,537	3,434	-2.9	-103	-100.0	100.0	10,706	36.8	9,414	-12.1
種類別売上区分	製品	654	449	-31.3	-205	-199.0	13.1	2,498	87.2	1,178	-52.9
	商品	237	219	-7.6	-18	-17.6	6.4	456	-0.9	394	-13.6
	保守サービス	894	873	-2.3	-21	-20.4	25.4	2,592	11.8	2,850	2.2
	クラウドサービス	862	1,032	19.7	170	165.0	30.1	2,430	37.8	2,981	22.7
	その他営業収入	890	861	-3.3	-29	-28.2	25.1	2,731	39.3	2,211	-19.0
粗利		2,137	1,945	-9.0	-192	-	-	6,480	48.4	5,610	-12.8
	粗利率(%)	60.4	56.6	-3.8	-	-	-	60.6	-	59.6	-
販売管理費		1,359	1,359	-0.0	0	-	-	3,831	2.2	4,086	6.5
	売上高販管比率(%)	38.4	39.6	1.1	-	-	-	36.7	-	43.4	-
営業利益		777	586	-24.6	-191	-	-	2,548	388.4	1,524	-40.2
	営業利益率(%)	22.0	17.1	-4.9	-	-	-	23.8	-	16.2	-
当期利益		469	465	-0.9	-4	-	-	1,646	343.7	1,054	-35.9
	当期利益率(%)	13.3	13.5	0.3	-	-	-	15.4	-	11.2	-
第4四半期業績		2020/3第4四半期	2021/3第4四半期	増減率	増減幅	増収寄与率	売上高構成比	2020/3通期	増減率	2021/3通期会社予想	増減率
単位:百万円		2020年1-3月	2021年1-3月予想	YOY:%	YOY:百万円	%	%	2019年4月-2020年3月	YOY:%	2020年4月-2021年3月	YOY:%
連結売上		3,560	3,866	8.6	306	100.0	100.0	14,266	24.7	13,280	-6.9
種類別売上区分	製品	870	1,383	103.4	513	226.5	35.3	3,168	26.8	2,539	-19.8
	商品	96	51	-46.9	-45	-14.7	1.3	552	-1.9	445	-19.4
	保守サービス	879	738	-16.0	-141	-48.1	19.1	3,471	11.1	3,388	-2.4
	クラウドサービス	844	1,038	10.0	194	30.7	28.8	3,374	37.6	4,019	19.1
	その他営業収入	870	878	0.9	8	0.9	17.5	3,701	33.1	2,889	-21.9
粗利		2,119	2,408	13.7	290	-	-	8,589	31.8	8,019	-6.7
	粗利率(%)	59.5	62.3	2.8	-	-	-	60.3	-	60.4	-
販売管理費		1,888	1,899	0.7	13	-	-	5,817	10.3	5,985	2.9
	売上高販管比率(%)	53.0	49.1	-3.9	-	-	-	40.8	-	45.1	-
営業利益		233	510	118.9	277	-	-	2,781	122.8	2,034	-26.9
	営業利益率(%)	6.5	13.2	6.8	-	-	-	19.5	-	15.3	-
当期利益		170	304	78.8	134	-	-	1,816	100.4	1,358	-25.2
	当期利益率(%)	4.8	7.9	3.1	-	-	-	12.7	-	10.2	-

(出所)決算短信に基づきアルファ・ウイン調査部が作成

<2021/3 期第3 四半期(2020 年 10~12 月)の実績>

- ・今期 Q3 (2020 年 10~12 月) の 3 ヶ月間では、売上高は 3,434 百万円 (YOY:△2.9%減)、営業利益 586 百万円 (同△24.6%減)、当期利益 465 百万円 (同△0.9%減) と売上高、及び利益ともに、Q2 の前年同期比と比較し減少率は縮小傾向にある。
- ・今期 Q3 決算を前期 Q3 と種類別売上高で比較すると、クラウドサービスを除き、残る 4 区分の売上高は前年特需の反動で依然マイナスとなっている。但し、製品売上高は Q2⇒Q3 の順に、前年同期比△64.7%

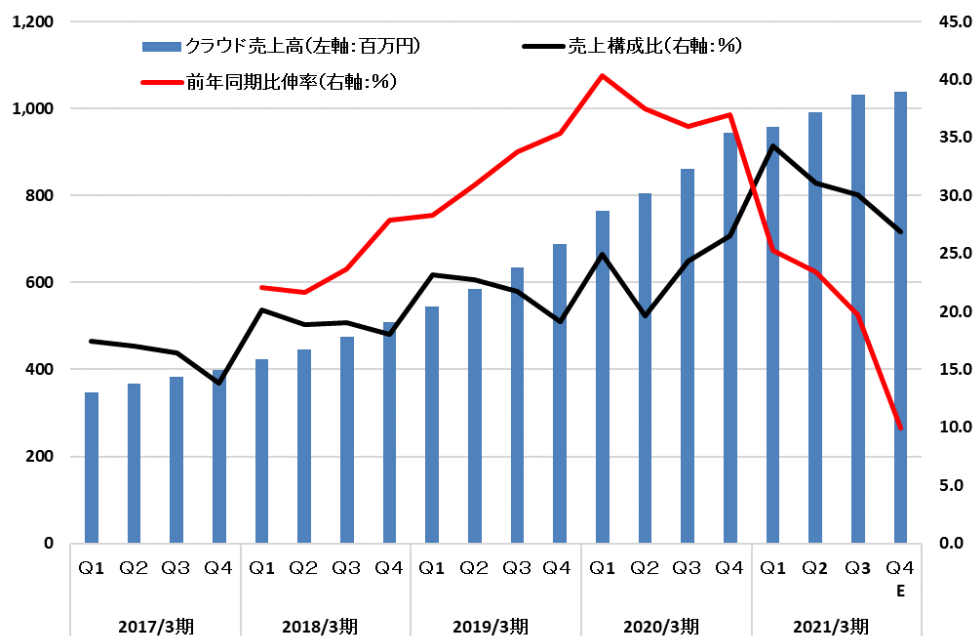
ショートレポート

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

⇒△31.3%と減収率は半減している。同様に、商品、保守サービス売上高、その他営業収入はそれぞれ、△16.4%⇒△7.6%、+5.4%⇒△2.3%、△30.3%⇒△3.3%と一桁の減少率となり、概ね特需の反動減は収束しつつある。

- ・一方、クラウド売上高は、Q1：957百万円（YOY：+25.2%増）、Q2：992百万円（+23.4%増）、Q3：1,032百万円（+19.7%増）と、前年同期比での伸びは徐々に鈍化しつつある（図表2）。この背景には、規模が大きくなったことに加え、クラウド新規会員数（フロー）の獲得において、コロナが新規顧客開拓面でややマイナスの影響を与えていると推測される。
- ・しかし、特需や季節性とは無関係に直前の四半期対比、及び前年同月比でも、クラウド売上高は継続的に増加している。また、クラウド会員数（ストック）は、2019年3月に12,313法人、2020年3月に14,388法人（前年比2,075法人増、+16.9%増）、2020年9月に15,262法人（3月比874法人増、+6.1%増）と、順調に積みあがっている（2020年12月末時点での会員数は非公表）。なお、クラウドによるサブスクリプションビジネスは成長性に加え、継続性と限界利益率が高い。同売上高は種類別売上高では最大となり、保守と合わせたストック売上構成比率は5割を超え、同社の売上高・利益を牽引し経営基盤の強化につながっている。
- ・今期Q3の利益面では、開発費負担の増加と利益率が高い製品や保守サービス売上高が減少し、粗利率は前期Q3の60.4%から56.6%へと3.8ポイント低下した。また同様に販管費率が38.4%から39.6%へと1.2%ポイント上昇したため、営業利益率は22.0%から17.1%へ4.9ポイント低下した。なお、Keepdata社の株式売却益を特別利益に計上したため、当期利益は前年同期比ではほぼフラットになった（P5：最近のトピック<連結子会社の売却>を参照）。

【図表2】クラウドビジネスの四半期別売上高推移



(出所)決算短信に基づきアルファ・ウイン調査部が作成、(備考)2021/3期Q4は会社前提

- ・今期Q3末のバランスシートは、前期末と比較して大きな変化はない。増益が、換金性のある資金（現預金+有価証券、前期末⇒今期Q3：13,952百万円⇒14,260百万円）と、純資産の増加（同：13,620百万

円⇒14,828 百万円) に結びつき、今期計画売上高、及び Q3 の総資産に対する現預金の比率は、各 79.3% (平均月商の 9.5 ヶ月分)、45.2%と手元の流動性は潤沢である。また、自己資本比率は 63.1%、流動比率は 281.6%と財務体質は良好である。

◆ 第 4 四半期計画と今期以降の業績見通し

<同社による第 4 四半期計画と通期計画>

- ・同社は、今通期の業績予想を、売上高は 13,280 百万円 (YOY: △6.9%減)、営業利益 2,034 百万円 (同 △26.9%減)、当期利益 1,358 百万円 (同△25.2%減) とし、一株当たり年間 34 円の普通配当の維持を計画している。
- ・Q3 累計の実績は、保守的と思われる社内予想 (非開示、従来より保守的な傾向がある) をやや上回ったと推測されるが、緊急事態宣言の発出によるコロナの影響が不透明であること、またこれに対応した IT 関連投資を検討していることもあり、通期の期初見通しを変えていない。

<当調査部による今期通期予想>

- ・今期は、特需効果の反動減とコロナの影響により、一時的な減収減益は不可避ではある。しかし、そのマイナスインパクトは徐々に弱まりつつあり、またクラウドを中心とするサブスクリプションビジネスの高成長は続いている。
- ・通期会社計画から第 3 四半期までの累計実績を差し引いた第 4 四半期 (1~3 月) の業績計画は、売上高が 3,866 百万円 (YOY+8.6%増)、営業利益が 510 百万円 (+118.9%増)、当期利益が 304 百万円 (+78.8%増) と前年同期比では 2 桁近い増収と、大幅な増益を予想している。但し、前期 Q4 には、既に特需の反動によるマイナスの影響が出ており、比較水準としては低いため、前年同期比では変化率が大きい。なお、直前の四半期である今期 Q3 と比較すると、Q4 予想は 432 百万円の増収 (QOQ+12.6%増)、営業利益△76 百万円の減益 (同△13.0%減)、営業利益率は 17.1%⇒13.2% (Q3⇒Q4 に 3.9 ポイントの悪化を予想) と利益前提は、やや保守的と考えられる。
- ・Q4 の同社による種類別売上高予想と、当調査部の見方 (⇒以下のコメント) は以下の通り。
 - 1, 旧製品からのバージョンアップキャンペーンを予定しており、製品売上高が急増する想定である。(前期 Q4 は 670 百万円、今期 Q3 は 449 百万円に対し、Q4 は 1,363 百万円を計画)
 - ⇒キャンペーン効果と、特需後の買い控えの逆反動 (ペントアップディマンド) があると考えられるが、会社想定線を若干下回ると推察される。
 - 2, クラウド売上高は今期 Q3 の 1,032 百万円 (YOY: +19.7%増、前期 Q3 は 862 百万円) とほぼ同じ 1,038 百万円の予想 (YOY+10.0%増、前期 Q4 は 944 百万円、) 。
 - ⇒クラウドに関しては、今期は毎四半期ともに直前四半期に対し、+40 百万円程度の増収トレンドが継続しており、Q4 も同様な増収が見込める。
 - 3, その他の 3 区分は前年同期比で商品△47%、保守△16%、その他営業収入△30%の減収となる前提。
 - ⇒Q3 までの実績を踏まえると、やや保守的であると考えられる。

- ・当調査部では、売上高を 13,350 百万円 (会社計画比+70 百万円)、営業利益 2,150 百万円 (同+116 百万円)、当期利益 1,430 百万円 (同+72 百万円) と会社計画を上回る業績を予想している (前回からの変更はなし)。
- ・上述のように Q3 累計の決算が会社想定を上回っていると推測されること、また製品以外、特にクラウドの Q4 の売上前提や全体的な利益前提が保守的であると思われること、またコストコントロールの余地があると推察されることがその理由である。

<中期業績予想>

- ・当調査部では、現時点で、来期以降の中期業績予想も変えていない。今後の業績は、HR ソリューション、及びスロースタートとなった PCA サブスクやハイパーシリーズ等の新規ビジネスを展開するスピードにも影響を受ける。しかし、来期以降、コロナの影響が緩和される前提のもとに、特需の反動減が一巡し、かつクラウドや勤怠管理システムが引き続き成長ドライバーとなって増収増益トレンドに戻ると当調査部では予想している。また、中期的な EPS の年間成長率を 8~10%と予想しており、好業績を背景に増配や機動的な自社株買い、加えて株式分割などの株主還元の強化も期待される。
- ・但し、新型コロナウイルスの感染拡大は、引き続き同社業績に影響を与えうる最大のリスクファクターであると考えられる。長期化すれば同社においても、新規の商談や新製品の拡販、オンサイト業務や効率面での影響が、タイムラグをおいて発生すると推測される。

◆ 最近のトピック

<連結子会社の売却>

- ・Q3 のトピックとしては、Keepdata 株式会社（以下、Keep 社）の売却が挙げられる。同社は 2019 年 3 月に、ビックデータの利活用とクラウドを用いたファイル共有システムに強みを持つ、Keep 社の株式 66.8% を約 44 百万円にて取得した。同社は Keep 社を買収後、連結対象子会社とし、そのノウハウを同社の基幹業務ソフトの周辺サービスの拡充に活かすべく取り組んできた。しかし、赤字幅は縮小傾向にあるものの黒字への転換ができず、債務超過に陥っていた（2020/3 期時点）。同社とのシステム連携や営業シナジーを得ることが難しく、今後も当初想定していたシナジーが得られないと判断し、2020 年 12 月 7 日に第三者に全株式の売却を行った（売却金額は非公表）。
- ・なお、Keep 社の売却により関連会社株式売却益を特別利益に 171 百万円計上し、同時に Keep 社に対する同社の債権を売却し、125 百万円を特別損失として計上し相殺している。
- ・買収後、2 年足らずで Keep 社を売却したことになるが、今期 Q4 以降、赤字子会社の売却により、同社の連結損益は改善することとなりポジティブに捉えられる。
- ・一方、同社は 2020 年 10 月に株式会社ドリームホップ社を買収（株式の 100%を取得、詳細は前回レポート参照）し、メンタルヘルス、健康経営領域を中心とした HR ソリューションを強化しており、事業ポートフォリオの改善の一環と考えられる。

<新型コロナ対応>

- ・また、新型コロナ対策として、従業員の在宅勤務の環境を整備し（全社での在宅勤務率：約 7 割、システム開発・検証部門は約 10 割）、商談・セミナー・イベントの延期とオンラインでのフェス開催や Web セミナーでの展開、コールセンターやサポート体制の整備（昨秋からリモートワークが可能）を継続している。新規事業を中心に営業面やオンサイトでの顧客サポートにおいてコロナの影響はあるものの、業態上、全体の業績が受ける影響は軽微に留まっている。

◆ 株価水準

- ・同社は、サブスクリプションビジネスを展開する内需小型成長株として評価され、特に直近の 2 年間は TOPIX を大きくアウトパフォームしてきた。一方、景気敏感株や今期業績の上方修正を発表した銘柄が買われたこともあり、直近の約 6 ヶ月間では TOPIX をアンダーパフォームしている。
- ・Q3 の決算自体には、特にサプライズはなかったものの、四半期単位での対前年同期の売上高、利益の減少率が低下したことや、不採算子会社の売却を好感し、Q3 決算発表直後、一時的に株価は上昇した。
- ・東証一部平均（予想 PER：27.1、実績 PBR：1.4、単純平均予想配当利回り：1.6%）や、同業他社であるオービックビジネスコンサルタントやミロク情報サービスと、同社のバリュエーションを比較した（2021

アルファ・ウイン 企業調査レポート

ピー・シー・エー (9629 東証一部)

発行日：2021/2/5

年2月5日終値基準)。東証一部との比較ではPERが、また同業2社との比較では配当利回りとPSRを除く今期予想PER、実績PBRやEV/EBITDAの各主要指標で、バリュエーションは低い。加えて今期の利益に上方修正の余地があり、これに連動して増配余地もあると思われる。また、来期は増益への転換が期待でき、株価に割安感があると考えられる(図表3)。今後も中長期的な安定成長株として注目していきたい。

【図表3】同業他社とのバリュエーション比較

社名	ピー・シー・エー (PCA:連結)	オービックビジネス コンサルタント(OBC:非連結)	ミロク情報サービス (MJS:連結)
コード	9629	4733	9928
株価(2/5終値)	4,420	6,670	2,192
時価総額(百万円)	34,034	538,296	76,295
PER(株価収益率)	21.7	54.7	26.2
PBR(株価純資産倍率)	2.0	4.4	3.3
配当利回り(%)	0.8	0.7	1.7
EV/EBITDA(倍)	10.3	32.9	11.5
PSR(株価売上高倍率)	2.6	17.6	2.3

時価総額=発行済株式総数×時価(2/5終値)

PERの計算に用いたEPS、配当利回りに用いた配当金は、全て今期(2021/3期)会社予想。PBRに用いたBPSは今期Q3実績

EV/EBITDA=(時価総額+有利子負債-現預金)/(営業利益+減価償却+無形固定資産償却等)

有利子負債-現預金は今期のQ3実績、営業利益は今期会社予想、償却費等は前期(2020/3期)実績

PSR=時価総額/売上高(今期会社予想)

(出所)アルファ・ウイン調査部が各社の決算短信から作成

【9629 ピー・シー・エー 業種：情報・通信】 図表A

決算期	売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	純利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)	BPS (円)	配当金 (円)
2018/3	9,785	4.5	807	86.8	834	79.9	441	174.1	64.4	1,644.4	31.0
2019/3	11,439	16.9	1,248	54.7	1,277	53.0	906	105.5	133.3	1,789.8	31.0
2020/3	14,266	24.7	2,781	122.8	2,808	119.9	1,816	100.4	272.9	2,027.4	54.0
2021/3 CE	13,280	-6.9	2,034	-26.9	2,055	-26.8	1,358	-25.2	204.7	-	34.0
2021/3 E	13,350	-6.4	2,150	-22.7	2,170	-22.7	1,430	-21.3	214.5	2,258.8	34.0
2022/3 E	14,000	4.9	2,280	6.0	2,300	6.0	1,520	6.3	228.0	2,452.8	34.0
2023/3 E	14,650	4.6	2,600	14.0	2,620	13.9	1,700	11.8	255.0	2,673.8	36.0
2020/3 Q1	3,073	31.0	587	917.5	598	754.6	364	945.3	54.8	1,848.5	—
2021/3 Q1	2,789	-9.2	465	-20.7	471	-21.2	272	-25.1	41.0	2,059.6	—
2020/3 Q2	4,097	59.3	1,184	533.3	1,192	498.9	814	402.2	122.3	1,975.6	—
2021/3 Q2	3,191	-22.1	473	-60.1	488	-59.0	317	-61.1	47.7	2,108.2	—
2020/3 Q3	3,537	21.2	777	180.5	777	178.5	469	168.0	70.5	2,049.2	—
2021/3 Q3	3,434	-2.9	586	-24.6	595	-23.4	466	-0.6	70.0	2,202.6	—
2020/3 Q3累計	10,706	36.6	2,548	388.4	2,566	368.7	1,646	343.7	247.5	2,049.2	—
2021/3 Q3累計	9,414	-12.1	1,524	-40.2	1,554	-39.4	1,055	-35.9	158.5	2,202.6	—
2020/3 Q4	3,560	-1.2	233	-68.0	242	-66.8	170	-68.2	25.5	2,027.4	—
2021/3 Q4 CE	3,866	8.6	510	118.9	501	107.0	303	78.2	45.6	—	—

(備考) CE:会社予想、E:アルファ・ウイン調査部予想、Q1:4-6月決算、Q2:7-9月決算、Q3:10-12月決算、Q4:1-3月決算、Q3累計:4-12月決算

【株価・バリュエーション指標：9629 ピー・シー・エー】 図表B

項目	2021/2/5	項目	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り	配当性向
株価(円)	4,420	前期実績	16.2	2.2	1.2%	19.8%
発行済株式数(千株)	7,700	今期予想	20.6	2.0	0.8%	15.9%
時価総額(百万円)	34,034	来期予想	19.4	1.8	0.8%	14.9%
潜在株式数(千株)	0	Q3末自己資本比率	63.1%	前期ROE	14.3%	

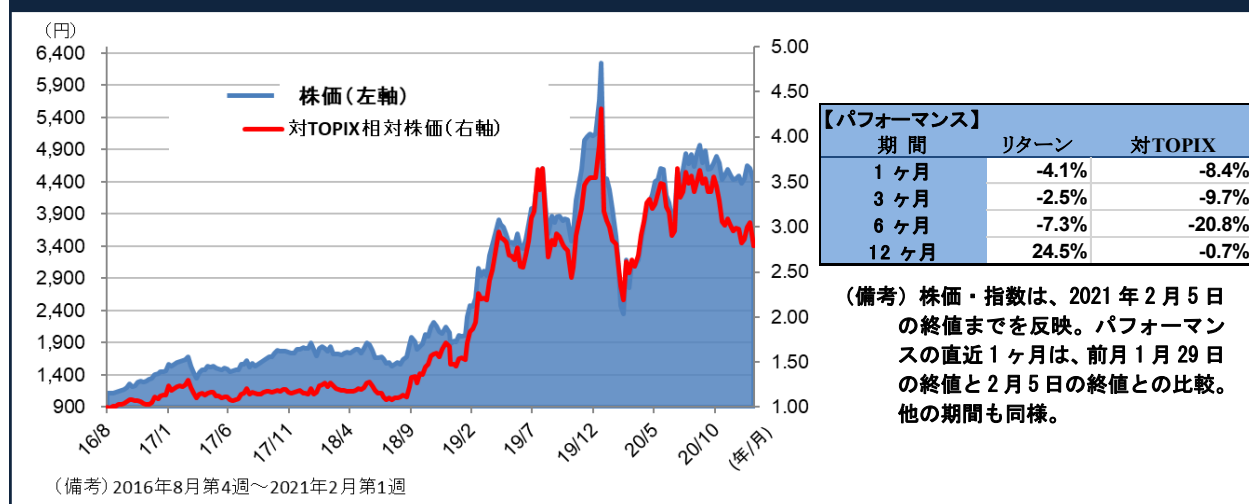
(備考) 予想:アルファ・ウイン調査部予想

ショートレポート

6/7

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様が本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

【 株価チャート (週末値) 9629 ピー・シー・エー 】 図表 C



ディスクレマー

アルファ・ウイン企業調査レポート（以下、本レポート）は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社（以下、弊社）が作成したものです。

本レポートは、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。弊社は投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。

本レポートの内容は、一般に入手可能な公開情報に基づきアナリストの取材等を経て分析し、客観性・中立性を重視した上で作成されたものです。弊社及び本レポートの作成者等の従事者が、掲載企業の有価証券を既に保有していること、あるいは今後において当該有価証券の売買を行う可能性があります。

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。（更新された）最新のレポートは、弊社のホームページ（<http://www.awincap.com/>）にてご覧ください。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。

本レポートの著作権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。本レポートについてのお問い合わせは、電子メール【info@awincap.com】にてお願いいたします。但し、お問い合わせに対し、弊社及び本レポート作成者は返信等の連絡をする義務は負いません。 SV2021-0205-1700